日本の鐵道技術家に望む

在青島　加賀山學

工事畫報社が十年間孜々として工事技術界の爲に努力して居られる事は、我々技術者として最も尊敬して居る處でありますが、最近其壹百號を發刊せらるゝに當り、態々遠く私に迄書を寄せて回答を求められたことは、その事業に對する御熱誠の現れとして誠に敬服する次第なのであります。

日本及世界の工事技術界に對する過去十年を回顧して、將來に對する希望感想を求められましたが、私は私の唯今取つてゐる職務が少うし技術を離れて居りますので、お答をすると自然政治的外交的になつてしまうのでありますからお許しを願ひ度いのであります。

然し技術は國境を超越して居ります。今こそ兄弟垣にせめいで居る様なものゝ、此先何年か後に於ては、所謂隣保の誼み、鐵道技術に於ては日本は中國に對して立派な先進者として指導教養の地位に立たなければならぬものと確信して居ります。この目的に向つて、私は日本の鐵道職員が唯に自己を敎練する許りでなく、何時でも人に敎へて行き得る丈けの實力の涵養を望んで止まないのであります而して何時でも何處へでも出て行つて、第一線に身を犠牲とする覺悟と努力とを要求して止まないのであります。

山東の地も亦狭小ではありますが、日本の貿易對地としては實に有望の地域であります私も就職以來切實に本線の改良及奥地への延長を企劃して居りますが、種々の事情に妨げられて、まだ十分に目的を達する事が出來ません。何年かの後、東洋の戰雲が靜まつた後に於ては當然、而して現在の如き狀勢に於ても尙力を盡して開發の任に當る可き必要ありと認めてゐるのであります。

自分の經驗中最も印象の大なる工事及事件の要點に對する記述は、私の判任官時代に岡山の建設事務所に居た時に造つた、宇野線の鐵筋コンクリートアーチと、近くは大正十二年關東大地震の際の東海道本線國府津御殿場間線路の應急及復舊工事とでありませう。前者は當時のインストラクションで、コンクリートは Continuous work in one day（繼續施行）を嚴守して祖父の死に目にも遇へず、今日より見れば馬鹿げてゐるが、雨露を避ける爲にスツカリ小屋掛け迄して施工したのと、後者は寢食を忘れて一日も早く開通の速かならんことを欲して、無理な仕事をしたのが記憶に殘つて居ります。詳しく申し上げると餘り長くなりますし、明日の船で出さないと間に合ひませんから、簡單にお答へ致します。不惡お察し下さい。（四月二十五日）

大阪地下鐵の橋本敬之氏から

（一）　小生の關係せる大阪市營地下鐵道工事も、梅田阪急前の假驛から、心齊橋北詰まで3粁の間を五月二十日に開業出來る運びになりました、御來阪の節、是非一度御試乘を願ひます。

（二）　小生の經驗では、矢張り一番最初に手にかけた、山陰線の桃觀隧道工事に、最も深い印象を殘して居ります。